

中山間地域に住む中学生の描く未来図と未来を考えることによる意識変化
Transformation of consciousness of junior high school students living in
a mountainous area by drawing the future of their community

○野田 紗由 ・ 岡島賢治

Sayu Noda and Kenji Okajima

1. はじめに

中山間地域では、人口減少や過疎化が問題となっている。総務省（2015）によると、これは、地方から都市への人口流出が原因であり、若い世代にとって魅力的な職業機会が地方に不足していることが人口流出の要因だとしている。三重県の御浜町でも人口流出の傾向が強く、特に働く若い世代（20～29歳）が地域から出て行っている。国や地方自治体では継続的に地域雇用の活性化のための事業を展開しているが、未だに人口流出は続いている。このような状況から本研究では、中学生などの若い世代が将来地域で生活するビジョンを描けていないからだと考えた。そこで、本研究では、(1)中学生が将来のビジョンを描く手法の1つとして未来図を描かせ、地域に住み続ける意識の変化についてアンケートを用いて調査すること、(2)未来図に描かれているコンテンツを明らかにし、未来の町に期待していることを調査することを目的とした。

2. 検証方法

本研究では、地域に残っており、学校教育などを通して、将来の事を考え始めている中学生を対象に、地域社会の未来を考える機会を設けた。また、未来を考える機会を設ける方法として、絵画を選択し、中学生が無意識に考えている地域の未来に対する漠然とした期待や不安を表出してくれることを期待し、潜在的なニーズの把握を図った。

2021年9月14日に御浜中学校の2年生47人（男子23人、女子24人）を対象に、地域の未来を考えるため、Society5.0に関する講演と、絵画を描くためのトレーニングとして絵画指導を行った。講演及び絵画指導のイベントを経て未来図を描き始めた中学生の意識の変化を調査するために、講演前と作画後にアンケート調査を合計2回行った。また、アンケート項目は、(1)属性、(2)地域教育、(3)御浜町に住み続ける意思、(4)地域についての5段階評価の4項目とした。

3. 結果と考察

1) 「地元」についての授業の有無：47人中38人が「あった」と回答し、残りの9人が「覚えていない」と回答した。「地元」についての授業内容について聞いた結果、地域教育があったと回答した38人全員が、御浜町の伝統の木綿である市木木綿を用いた地域教育があったと選択していた（図1）。このことから、御浜町では生徒の印象に残る地域教育が行われていることがわかった。

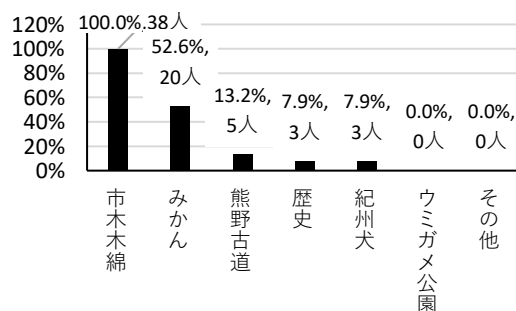


図1 「地元」についての授業内容の割合
Figure 1 Histogram of class contents about "community resources"

2) 将来、御浜町に住み続けたいか：図2と3に、講演前と作画後の質問への回答結果を示す。図2では、とても思う、やや思うと回答した人が、40.4%と比較的多かった。

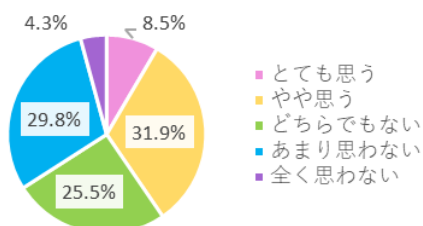


図3 将来、町に住み続けたいか（講演前）
Figure 2 Answers to the question of whether you would like to continue to live in your community in the future (Before the class)

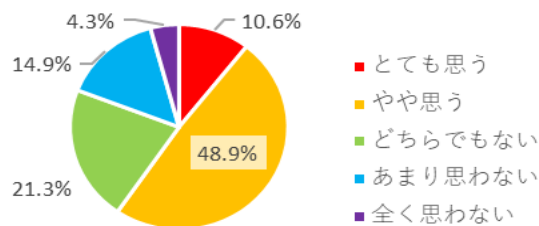


図2 将来、町に住み続けたいか（作画後）
Figure 3 Answers to the question of whether you would like to continue to live in your community in the future (After the class)

さらに、作画後には59.5%に19.4%増加していた。講演などを通し、御浜町の未来を考えたことで、未来の御浜町に住んでみたいと思う人が増えたからだと考えられる。

3) 御浜町に対する改善案：講演前と作画後において、御浜町に対する改善案を問う自由回答を比較した。講演前に最も多くあげられていたのは、ショッピングモール（大型店舗）などのお店で、次いでテーマパークなどの遊ぶ場所、働く場所などの意見が多くあげられていた。一方、作画後は、講演前にあげられたものの他に、高校、大学などの教育機関、農業用のドローン、子どもや働く人たちへの制度の充実、高齢者のための施設など、広い世代を対象とした制度や施設のほか、ドローンやAIといった先進技術の利用をあげる意見が目立った。

4) 未来図に描かれたものの分析：中学生の描いた未来図に描かれているものをカテゴライズし、図4にまとめた。交通・商業施設関連よりも、農地・農業機械が最も多く描かれており（27人）、その中でもドローンやロボットで作物の水やり・収穫をするなどの絵を描いている人が15人いた。この結果から、中学生も農業の機械化や更なる技術発展を望んでいることがわかった。

4. まとめ

本研究では、(1)中学生が将来のビジョンを描く手法の1つとして未来図を描かせ、地域に住み続ける意識の変化についてアンケートを用いて調査すること、(2)未来図に描かれているコンテンツを明らかにすることを目的に研究を行った。(1)については、地域の未来を考える講演や未来図の作画を通じて、将来、地域に住み続けたい人の割合や地域に対する改善案が、講演・作画後に変化するなど、地域への意識が変化し、地域に対して愛着や当事者意識を持たれた人が増加していた。(2)については、交通や商業施設以上に、圃場におけるドローンやロボットが描かれていることがわかった。今回のように中学生が地域の未来を考え、未来図を描くといった経験は、地域に対する意識の変化や将来地域で生活するビジョンを描くために有効であり、この取り組みを続けていくことは、地域への定住につながる可能性があると感じた。また、ドローンやロボットを農業に用いている絵を描いていることから、農業土木、農業機械の発展も潜在的に期待されていることがわかった。

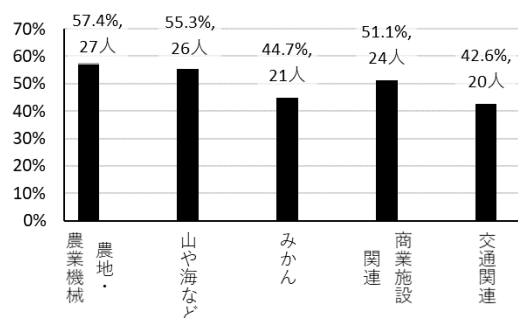


図4 未来図の絵画に描かれたものの分析
Figure 4 Histogram classifying the contents depicted in pictures